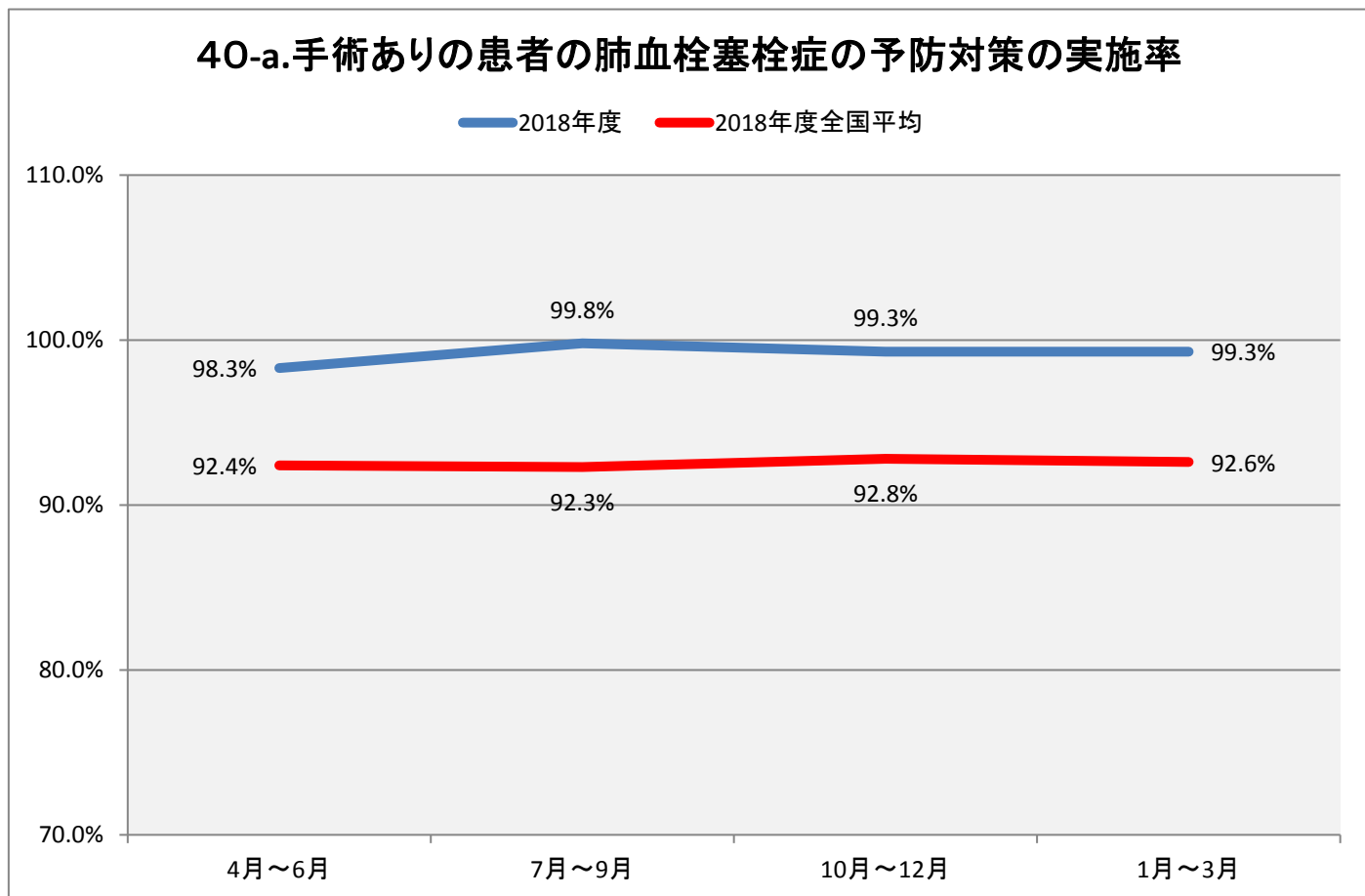


40-a.手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

(1)調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2018年度	98.3%	99.8%	99.3%	99.3%
2018年度全国平均	92.4%	92.3%	92.8%	92.6%

(2)指標の説明

肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の予防方法には、弾性ストッキングの着用や間歇的空気圧迫装置の使用、抗凝固薬療法があり、リスクレベルに応じて単独あるいは併用が推奨されています。周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は、急性肺血栓塞栓症の発生率を下げることに繋がると考えられています。
2018年度から採用された項目です。

(3)定義

分子:分母のうち肺血栓塞栓症の予防対策(弾性ストッキングの着用、間歇的空気圧迫装置の利用、抗凝固療法のいずれか、または2つ以上)が実施された患者数
分母:肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数